

■ 共同企業体連絡会発足しました。

共同企業体連絡会発足しました。



就労準備支援拠点である「ざま」、「ゆがわら」、「ひらつか」の3つの「はたらっく」、さがみ生活クラブ生協、湘南生活クラブ生協、生活クラブ神奈川、ワーカーズ・コレクティブ協会の共同企業体関係者が集まり、第1回共同企業体連絡会を7月28日に開催しました。

◇共同企業体連絡会の開催主旨

- ①「はたらっく」の関係者が一堂に会し、地域間連携、共通する諸課題の対策検討、政策提案を検討するなどの場を設け、就労準備支援事業を通じたソーシャルインクルーシブな地域社会づくりをすすめます。
- ②協会単独で受託している横浜市就労準備支援事業の活動も共有し、生活クラブ運動グループによる就労準備支援モデルとして総合化し、非営利・協同セクターの価値を高めます。

◇具体的な検討課題

- ①3つの「はたらっく」および横浜市就労準備支援事業の活動状況を共有し、情報発信や組合員参加による新たな活動の検討。
- ②新たな事業展開の可能性の共有と具体化に向けた検討。
- ③事業・活動から見えてきた共通課題の対策の検討と、必要に応じて政策提案につなげていく。

- ④全体研修の実施。
- ⑤その他

◇メンバー

- 生活クラブ生活協同組合(神奈川ユニオン)
三浦副理事長、柳下常務(たすけあいネットワーク事業部部長兼務)
事務局:小畑たすけあいネットワーク事業部生活再生課リーダー
川澄たすけあいネットワーク事業部次長
- さがみ生活クラブ生協
木村常務理事、竹内専務理事
- 湘南生活クラブ生協
飯田理事長、林口専務理事
- ワーカーズ・コレクティブ協会
上田理事長、岡田副理事長、松川専務理事
- はたらっく・ざま
岡田代表、川澄管理運営責任者
- はたらっく・ゆがわら
柏木代表
- はたらっく・ひらつか
君島代表、澤口現場責任者



■共同企業体連絡会発足しました

共同企業体で座間市就労準備支援事業を受託したことで、今まで横浜でやってきたワーカーズ・コレクティブ中心の就労支援から、地域市民である生活クラブ組合員が参加する「地域づくり・まちづくり」へと変化していき、地域の支え合い、たすけあいの具体化へと進みつつあります。特に座間市は市民と共に困窮者支援をしていくというスタンスが明確です。「はたらっく・ざま」の活動が県内外から高い評価を受けたことから、「ゆがわら」「ひらつか」へと受託が広がっていきました。

共同企業体とは言っても、「ざま」はさがみ生協であり、「ゆがわら」「ひらつか」は同じ湘南生協とは言え、地域資源がまったく異なります。利用者像も違っている。また、就労準備だけではなく、居住支援や学習支援、居場所事業まで生活困窮者事業が広がってきました。これだけでいうと事業展開がどんどん進み順調のように見えますが、実際はスタッフの人材確保や人材育成はどうするのかなど、課題は山積みでした。そこで、協会から生活クラブへ連絡会の開催を提案してきて、ようやく実現しました。

連絡会では、事業については、お互いどのような活動をしているのか質問しあったり、活発に意見交換ができました。地域資源だけではなく、行政のスタンスや関わり方もまったく異なっていることもわかり、私自身も横浜の事業を少し離れた目で見ることができるようになりました。

8月23日からは、生活クラブ生協が単独で受託している家計改善支援事業と共同企業体で進めている就労準備支援事業に関わる支援員養成研修が始まります。これは生活クラブユニオンと協会との共催で連絡会主催ではありませんが、参加状況について共有しました。今後事業展開の可能性がある、さがみと湘南の組合員に向けてチラシ配布をしてこの研修受講生の中からスタッフを募るのが目的ですが、参加者は最終的に30人にもなりました。「はたらっく」などの生活困窮者支援に生活クラブ組合員が関心を寄せていることがわかりました。全員がスタッフになれるわけではありませんが、関心をよせてくれている組合員の参加の場を多様につくり、地域の支え合い、たすけあいの具体化の検討なども連絡会で進めていきたいと思えます。
(松川 由美)



